

東日本大震災直後の岩手県宮古市。

道路啓開により緊急車両の通行が確保され、

広域応援部隊による人的支援や

支援物資が届けられるようになった。

写真提供：
東北地方整備局震災伝承館

南海トラフ地震に備えて

命の道を切り開く！

災害時の受援・救急ルートを確保

受援計画…防災室 ☎229-3104 FAX223-6247 道路啓開計画…建設政策課 ☎229-3194 FAX229-3345

大規模災害時は、甚大な被害への対応から被災自治体単独での災害対応が困難となる
ことが想定されるため、「受援」と「道路啓開」が非常に重要な役割を果たします。

受援とは、災害が発生した際に、被災自治体が県外の自衛隊や警察、消防のほか、他の自治体やNPO、ボランティア等の各種団体から、人的・物的資源などの支援を受け入れることを指します。令和6年能登半島地震では、実際に津市消防本部が緊急消防援助隊として石川県輪島市に派遣され、救急救助活動に従事しました。このように、もし津市で大規模災害が発生し、甚大な被害に見舞われた場合には、県外からの応援部隊を受け入れることとなり、地元救助機関と連携した救助活動が行える体制を整えておく必要があります。

また、「道路啓開」とは、沿道建物の倒壊やがれきの堆積、道路・橋の損傷等により道路が寸断された場合に、道路上の障害物の除去や応急的な段差解消などを行い、寸断された道路を復旧し、迅速に

大規模災害時には
自衛隊・警察・消防が
広域応援部隊として
救助活動を行います！



陸上自衛隊久居駐屯地
第33普通科連隊隊員

津市消防本部
消防士

三重県警察
機動隊隊員

緊急車両の通行ルートを確保
することをいいます。

県外から駆け付ける自衛隊などの救助機関は、災害発生直後から体制を整え、おおよそ24時間以内をめどに被災地へと入るため、それまでの間に緊急車両の通行ルートを確保することが求められます。

道路啓開の鍵 『くしの歯作戦』

東日本大震災では、地震と津波の影響で陸路が寸断され、多くの地域が孤立しました。被災者を救助し、物資を届ける「命の道」を確保するため、内陸部を南北に貫く東北自動車道と国道4号を基軸に、沿岸部へ延びる何本もの国道が早期に復旧されました。切り開かれた道が櫛のように見えたことから、この作戦は「くしの歯作戦」と呼ばれました。津市でも発災時には、国や県と協力し、伊勢自動車道と国道23号中勢バイパスを基軸とした「くしの歯ルート」を確保します。



このため、津市では、南海トラフ地震の発生に備え、令和6年度に「津市災害時受援計画」を全面的に見直すとともに、新たに「津市道路啓開計画」を策定しました。

今後、市民の生命・安全を守るため、津市の災害対応力の強化に取り組みます。